

# 電波専門委員会の報告

2014年9月25日

小林秀行

# 2012-2013電波専門委員会

## VERAレビュー

- プロジェクトの達成・進捗

- アstrometry研究の戦略性、計画性を強化すべき、Besselとの競合、GAIA・JASMINEなどの他波長の相補性を考慮する。理論Gとの協力。
- 開発についても、研究目標を見据えた開発計画（スケジュール・コスト・マンパワー）を作るべき
- AGN研究については、JVN, KaVA, サブミリなどの計画について、研究の方向性、資源の配分計画を検討すべき

# 電波専門委員会VERALレビュー

- 将来計画

- KaVA,EAVNの計画について、研究目標を定量化して、時間配分も考慮し、実現性などを検討すべきである。
- JVN,KaVA,EAVNの役割分担と組織化を検討すべきである。

# 平成26-27年度 専門委員会への国立天文台執行部からのチャージ

## D. 電波専門委員会

当該分野における共同利用の円滑な推進のために、各観測所の方針や今後の方向性などについて、各種小委員会を活用しながら、大局的かつ長期的見地から審議し、答申をまとめる。

1. 国立天文台として進める電波天文分野の次期大型・中型計画について、優先順位も含めて審議し、今後10年を見据えた国立天文台の電波分野におけるロードマップ案を作成する。
2. ALMAについては、欧米に伍する研究成果の創出を目標に、研究プロモーション(地域センターやASTEの役割、多波長との連携等)の進め方について審議する。ALMA地域センターについては、2012-2013年度で審議した結果に対するフォローアップを行う。
3. SKAについては、理論分野も巻き込んで科学目標の実現可能性について詳細な検討を行い、電波天文専門委員会として、SKAを国立天文台の電波分野次期大型計画として推すかどうかを検討する。
4. **水沢VLBI観測所については、VERAの観測が2022年3月に終了することを想定し、同観測所の将来についての議論を行い、答申にまとめる。**
5. 野辺山宇宙電波観測所については、デコミッションを含む将来の方向性について議論を行い、答申にまとめる。
6. 電波分野における海外からの協力依頼(CCAT等)について審議する。

# 2014-2015年度期

- 水沢VLBI観測所の将来計画について審議未了のために、プロジェクトからの提案をレビューする委員会を組織する
- VERA に関する2010-2011年度で審議した結果に対するフォローアップ
- VERAの現状と達成度、そして今後の改善計画
- KaVA の現状と達成度、そして今後の改善計画
- 大学連携VLBI ネットワークの現状と達成度、そして今後の改善計画
- 東アジアVLBI ネットワークの現状と達成度、そして今後の改善計画
- 水沢VLBI観測所の将来(mm-VLBI、space-VLBI、SKAなど。)充実した科学成果を生むために、他のプロジェクトとの競合や連携を考慮した戦略的な科学目標の設定とその達成に必要な運用形態に対しての改善点を上記の改善計画の中に、しっかりと組み込むこと。